

○井神議長 通告6番目、15番、増田浩二議員、一問一答方式で質問をお願いします。
増田浩二議員。

○増田議員 15番、増田浩二、議長の許可を得ましたので一般質問を行います。

観光面を初めとした利便性の問題、また、学校生活における子供たちの安全を初めとした質問を今議会では行いたいと思います。

そういう点では、まず1点目として、EV施設について、もう1点は、根来小学校の環境整備についての2点という点で、今回、質問したいと思います。一問一答で行いますが、当局の誠意ある答弁を求めるものであります。

まず、EV施設についてから当局の対応などをお聞きしたいと思います。

今、地球の温暖化が進んできています。ことし6月8日に開かれた主要7カ国首脳会議では温暖化対策で、2050年までに世界全体の温室効果ガス排出量を10年比で40%から70%の幅の上方に削減するという新たな長期目標を盛り込んだ首脳宣言も採択がされてきています。地球温暖化対策の一環として、車の排出ガスを抑える上でも研究をされてきたのが電気自動車です。今、各自動車メーカーでも機種をそろえ、普及も始まってきています。

パーク24という会社が、電気自動車（EV）に関する意識調査を実施し、アンケートの結果を発表しています。調査は、ドライバー向け会員制サービス、タイムズクラブの会員を対象に、2014年12月22日から28日の7日間、非公開型インターネットアンケートで行い、6,906名から回答を得たそうです。EV車がどうなったら購入するかを聞いたところ、40%が価格が手ごろになったらと回答、次いで、航続距離に不安がなくなったら23%、充電ステーションがふえたら20%、好きな車種があったら14%となっています。値段と走行距離という面などで問題を抱えているものの、実際にEV車は普及してきています。

このように電気自動車の普及が進む中、充電施設を設置して、観光面でも生かそうとする自治体もふえてきているのです。岩出市内においても、根来山げんきの森、緑化センターなど県の施設にも設置がされてきています。岩出市でも庁舎を初め、ねごろ資料館やさぎのせ公園といった公共施設などに充電設備を設置し、EV車を利用している方の不安をなくすと同時に、観光面でもつながっていくような形で、こういうステーションは設置して生かしていく、こういうこともすべきではないかというふうに思います。

2点目に、災害対策として、停電の際に、車の駆動用バッテリーを蓄電池として活用する電力供給システムを公共施設に導入する自治体もあります。施設の非常用

発電機の補助電源として使用し、仮設照明、携帯電話の充電器、災害設備として移動ポンプ、浄水器などへの利用を想定しており、イベントホールへ約42時間、災害用設備へ約8時間、それぞれ電力を供給するシステムとのことです。これは新築の公共施設ということですが、今後、この岩出市においても、東南海地震を初めとした地震対策として、電力確保という面での災害対策としても、調査や研究をしてはどうかと思うんです。この点についてお聞きをしたいと思います。

3点目としては、今後、EVスタンド、このさらなる普及というものが求められているというふうにも考えますが、岩出市として、普及促進へ企業などへの対応、これはどのようにされているのか。今、オートバックスさんなんかの企業なんかも設置されているところがあります。このような点からは、今後のこの対応として、岩出市としてどう進めていくのか、当局の見解をお聞きをしたいと思います。

以上です。

○井神議長 ただいまの1番目の質問に対する市当局の答弁を求めます。

生活福祉部長。

○杉原生活福祉部長 増田議員の一般質問にお答えいたします。

EV施設についてということでございます。

和歌山県では平成25年にビジョンを策定し、それに基づいて、現在進められているということを聞いてございます。次世代自動車充電インフラ整備に係るビジョンの策定に当たっては、国において、策定主体として都道府県と高速道路会社を想定し、地域の特性や実情を踏まえ、充電切れすることなく、効率的に充電器が配備されること、また、著しく過剰に配備されないことを配慮し、策定されるものであると認識してございます。

県においては、経済産業省の示すモデルプランを参考に、和歌山県次世代自動車充電インフラ整備ビジョンが策定されているところです。市といたしましては、県下の主要道路を踏まえ、電欠することなく、効率的に配置すべく策定されているものであると考え、市のビジョンの策定は考えてございません。

なお、企業などへの対応につきましては、県において効率的に充電器が配備されることなどを勘案し、企業に対し、個別に整備依頼していると聞いてございます。

○井神議長 総務部長。

○佐伯総務部長 増田議員のEV施設についての2点目に、お答えをいたします。

電気自動車の駆動用バッテリーによる給電システムを災害時に活用する取り組みについてですけど、これは十分認識しております。しかしながら、電気自動車は、

ガソリン車に比べて車両が高価でありますので、費用対効果等を鑑みますと、議員ご提案の調査・研究を行うかどうかについては、今後の検討課題の1つとさせていただきたいと思います。

○井神議長 再質問を許します。

増田浩二議員。

○増田議員 今答弁いただきました。充電スタンド、そういう点なんかについては、非常に岩出市として消極的というような点があるんじゃないかというふうに思うんです。答弁では、このようなエネルギー施策、これは県がするもんだと。岩出市についてはかわりがないんだという答弁だと言わざるを得ないと思うんですね。なぜ、こんなに消極的なのか、私はよくわからないんです。

現実には、先ほども言いましたように、既に、岩出市内の中で県の施設という部分の中で、緑化センター、げんきの森、こういうところに導入はされてきていると。じゃあ、県は何のために、この充電施設を設置されてきたのか。

事業部長は県のほうから来られました。県では、このような施策をとっているんですね。岩出市で、このような県の姿勢、観光のために、また1人でも多くの観光客に来てもらう、そういうふうな観点から、県の施設で設置されてきてるんじゃないでしょうか。値段が高いから設置できないというものではありません。

ある会社の充電スタンドの費用を調べてみました。各会社で違いはあろうかと思います。パナソニックという会社、この会社の部分の点では、標準型という部類のスタンドで60万円台です。複数型のスタンドを設置しても100万円もかからないという、そういう90万円前後の値段です。何千万もかかるというような、そういう代物ではありません。

そういう点では、県のこういうような姿勢にこそ、私は学ぶべきではないのかなというふうに思います。なぜ、前向きに捉えられないのか、この点をまず1点お聞きをしたいと思います。

それと、災害対策面については、今後の検討課題にしたいんだというようなお答えでした。先ほども言ったんですが、施設の非常用発電機の補助電源、そういう観点から、これ導入されてきているんですね。それはなぜなのかというと、東京なんかでも電車がとまったりとか、また、災害なんかで帰れない一時帰宅難民者、そういう人たちのためにも、そういう補助電源、こういう施設なんかで設置をして、携帯電源なんかも初めとして、そういう災害という面においても活用できるものに使用されているものなんです。

そういう点では、こういう面においては、私は積極的にこれを調査・研究をして、岩出市でも生かしていける、そういうふうにするべきではないかと思うんです。

ちなみに、岩出市の庁舎や、また、あいあいセンター、こういった施設では、今、仮に、こういう停電というような部分があったときに、バックアップ電源というのは何時間ぐらいもつものなのか、これをお聞きしたいと思うんです。

それと、各公共施設というんですか、公民館を初めとして、いろんなところでの停電対策という点では、バックアップというような、そういうものは現在あるんでしょうか。また、あるとしたらどのような対応になっているのか、この点をお聞きをしたいと思います。

それと、普及面という点で、各業者の皆さんなんか、企業の皆さんなんかには、岩出市そのもの自身は、先ほどの答弁では、何ら対応しないんだというようなふうに捉えたんですが、そういう点においては、こういうE V車なんかのこういう面においては、全て和歌山県の行政において、これをするんだと。岩出市では全くしないというふうに聞こえたんですが、実際には、岩出市、何の対応というんですか、そういうものもしないのか、この点、改めて、再度お聞きをしたいと思います。

○井神議長　ただいまの再質問に対する市当局の答弁を求めます。

生活福祉部長。

○杉原生活福祉部長　増田議員の再質問にお答えいたします。

市として前向きに捉えられないのかということでございます。次世代自動車充電インフラ整備については、国、特に経済産業省を中心にして、電気自動車の普及ということで、それが、各それぞれの都道府県において、ビジョン策定という形に至っているということでございまして、市が策定するというものではなくて、県が、あくまでも先ほどお答えいたしましたように、効率的に充電器が配備される、あるいは著しく過剰に配備されないといったことなどで、県下の主要道路にそれぞれ計画的に設置を進められているという、そういうものでございます。

それから、あいあいセンターに、非常用の電源の時間、何時間ということでございますが、非常用電源としては3時間ということでございます。

○井神議長　総務部長。

○佐伯総務部長　増田議員の再質問にお答えいたします。

まず1点目に、災害時の公共施設に補助電源として利用できないかという再質問でございます。

E V車の駆動用バッテリーについて、補助電源としての利用ということでありま

すけども、県の報告によりますと、電気自動車の累積販売数なんかを見ますと、ことし3月で837台ということであります。非常に少数であると、このように考えてます。今後、電気自動車の普及を待ってからでも遅くはないのかと考えております。

以上のことから、考えはございません。

2点目、自家発の施設についてですけども、市役所につきましては72時間、いわゆる3日間、自家発の稼動ができます。それから、保健福祉センターについては、福祉部長が申し上げたとおりです。それから、他の公共施設についてでございますけども、非常用の発電施設はございません。しかしながら、市のほうといたしましては、備蓄物資として発電機を現在7つ保有しておりますので、非常用にはそれを稼動させて、補助電源に充てる計画でございます。

以上です。

○井神議長 事業部長。

○船戸事業部長 県から参りました船戸です。再質問にお答えします。

議員のご指摘のとおり、県には県の考え方があって、施策を打っておられると思っています。私どもは、それに反対する所存は全くございませんが、ただ、県は先導して、せっかくやっけていただいておりますので、その様子を見ながら、市が追随するという考え方もありなんじゃないかと思っています。

そこで、岩出市内の現状をちょっと調べてみました。緑化センターでは6月1日から、根来山げんきの森では6月5日からEV施設の供用を開始しておりますが、どちらの施設でも、現在、使用者数はゼロとなっております。また、近隣では、めっけもん広場で平成26年7月22日から供用開始しておりますが、利用の実態から、直接的に観光の振興が図られているとは考えにくい状態であります。

今後、岩出市の観光施設へのEV施設の設置につきましては、EV車の普及状況を見ながら、国・県の動向も注視して対応してまいりたいと、そう考えております。

○井神議長 再々質問を許します。

増田浩二議員。

○増田議員 計画は県がするということなので、何ていうんですか、県の指示待ちと、そういう認識だと思っんですね。じゃあ、県が今つくっている計画、こういう計画の中には、各市町村に対しては、どのような形で、このEV対策という、こういうステーションですね、そういうのを県として考えているのかという、そういう部分については、記述なんかはあるんでしょうか。その点がまず1点です。

もう1点は、非常に私残念だなと思うのは、いろんなこういう問題について、そ

れを生かしていく。先ほども言ったんですが、観光面でも利用できるんじゃないかと。そういうふうな形で考えていく。そういうことが、私、非常に大事だと思うんです。現実には、九度山町なんかは、あそこ、めっけもんでしたかな、そういう九度山町でつくられた、そういうところに、今どんどんどんどん他の観光客なんかが来られています。そこには敷地内にこういう電気スタンド、電気のこういうEVスタンド、そういうものなんかも、もう既に設置されてきているんです。私、九度山町長、偉いな、さすがやな、こういうふうに私は思いますよ。

少しでも、そういう部分で観光客にも来ていただける、そういう1つの目玉としても、九度山町にはこういうのがありますよ、皆さん、どんどんぜひ来てくださいよと。そういう形で積極的に、それ取り組んでいく姿勢、これは本当立派やなというふうに思います。岩出市と全然違うなと。岩出市では、本当にそういう点では観光客を呼んでいくための1つの手段としても、そういうことを考えられないという、こういう点については非常に残念です。

そういう点では、やっぱり実際に県で行っているそういう姿勢とか、他の自治体でやっているというような、そういう姿勢、そういうことこそ、私、学ぶべきだと思うんです。現実には、今、1台も使った形跡ないと言われたけれども、早く使っていただける、そういうようなこととしても、岩出市内には、もっともっとうちところがあるんですよという形で、やっぱり、そういう部分を設置していくということも考えていく。いろんな知恵や創意工夫、これをして岩出市を活性化させていく、そういうことを考えていくのが大事なんじゃないでしょうか。そういう視点というのが、私は大事だと本当に思うんです。

そういう点では、今、県の指示待ちとか、また、他の顔をうかがうというような、そういう姿勢なんだけれども、そういう点では積極的に考えていかない理由、そういう部分も含めて、私、改めていくべきじゃないかな、そういうふうに思うんです。そういう点では、改めて事業部長にもお聞きするんですが、そういう県の姿勢に学ばないというのは、どういう理由なのかという点、これをお聞きしたいと思うんです。

最後に、事業部長として、一番最初も言ったんですが、ここの岩出市に来られて、もう2カ月余りたちました。そういう点では、今後、事業部長として、この岩出市に来られて実際に感じられた点、これがおありだったらお答えをいただきたいと思うし、今後、岩出市において、事業部長として、どのような形、姿勢で、この岩出市をよくしていく、そのために働くのか、決意のほどなんかも最後にお伺いをさせ

ていただいて、この質問を終わらせていただきたいと思います。

○井神議長 ただいまの再々質問に対する市当局の答弁を求めます。

生活福祉部長。

○杉原生活福祉部長 増田議員の再々質問にお答えいたします。

まず、このEV車、電気自動車でございますけれども、先ほど議員のほうからも冒頭にお話ございましたけれども、やはり現時点においては、まだ発展途上、メリットとデメリット、それぞれあるかということでございます。確かに、メリットという部分に関しましては、排ガスゼロであったり、石油代替エネルギーの利用可能であったり、エネルギー回収可能や経済的や充電が簡単やといったところのことがございますけれども、逆にデメリットということで考えますと、やはり充電時間とインフラ整備と技術不足、あるいは航続距離、車両価格、それから電池自体にも、やはり、ちょっとまだまだ安全性とかいったところについても問題があるというふうな意見も確かにあるということでございます。そういうことを踏まえて、電気自動車自体がなかなか、やはり普及が進んでいないということになっているのかと、このように考えてございます。

これは参考値ではございますけれども、和歌山県内で、平成27年3月末現在でということで、電気自動車の普及率は0.12%というふうな、非常に低い数値ということになってございます。

先ほど、県の計画ということで、岩出市に対してどのような計画が盛り込まれているかというお話があったかと思うんですけども、県の計画は、基本的には、やはり日本列島、電欠ない状況でという、そういうポイント、全国的にそれぞれ示されてございます。

高速道路の関係であったり、あるいは各生活圏の主要道路ということで、川筋ネットワーク道路、それから、それぞれの県内の全域ということで、各市町村に数字的なものは書かれてございますけれども、具体的に、岩出市に対してというふうなものはございません。

以上です。

○井神議長 事業部長。

○船戸事業部長 ご指名がありましたので、お答えします。

議員は、県の姿勢に学ばないのかとおっしゃってましたが、決して県の姿勢に学ばないとは申ししておりません。ただ、EV施設の設置には、もちろんお金がかかります。維持管理にもお金がかかります。私どもの調べでは、設置費用で約500万か

ら1,000万程度、維持管理で、電気代が30万から60万、電気代を除くメンテ代だけでも約40万程度、月ですけど、かかると聞いております。それを合計しますと月々約100万程度かかるんですが、今のEV車の普及状況から考えると、到底採算がとれないと考えております。ですから、県の施設等の利用状況を見て判断していきたいと、こう思っております。

それと、あと、最後の質問にどうお答えしてよいのかわかりませんが、私は、岩出市の職員として、今後の岩出市の発展のために頑張っていきたいと、そう思っております。

以上です。

○井神議長　これで、増田浩二議員の1番目の質問を終わります。

引き続きまして、2番目の質問をお願いします。

増田浩二議員。

○増田議員　次に、根来小学校の環境整備について質問をしたいと思います。

根来小学校の東口玄関前の百葉箱を初めとする花壇などの施設、岩石園というんですが、それのところが危険、立入禁止となっています。根来小学校では、本来、こういう岩石園という名前で子供たちに親しんでもらおうという、そういう立場でつくられた、そういうものです。

それが、今、花壇内というか、岩石園そのものが草ぼうぼうの状態で、活用できない状況となっています。コーンも数カ所に立てられて、岩石園に入れない状況となっています。そして、コーンの横には張り紙もされて、危険です、岩石園に入らないでくださいというものと、とんがった石があるため危険です、岩石園に入らないでくださいという張り紙が何カ所もされているのです。

環境面でも景観面でも、また安全面においても、子供たちに悪影響を及ぼしていると考えます。そもそも根来小学校にある岩石園は、子供たちの学校生活に必要なためにつくられたものではないのでしょうか。その必要なものが、子供たちにとって危険な状態にさらされているのです。現状について、このことをまず念頭に置いていただきたいと思います。その上で3点、教育委員会にお聞きをしたいと思うんです。

1点目は、教育委員会として、学校という場所は、環境面、景観面、また安全面においては、どのような状態であるべきと考えているのか。

2点目として、学校現場では、予算配分が少ないから岩石園の改善要望も出せない状況で、これ以外にも改善要望がたくさんあり、後回しの対応となっている状況

もあると聞いています。市全体の教育予算の増額、学校現場でこういうことができないのであれば、教育予算そのものの増額、これを図る必要性があるのではないのでしょうか。

3点目として、今後、このような状況がある中で、教育委員会として現場の実態を踏まえ、改善が必要とは考えていないのか。

そもそも教職員組合の方からは、このような現状を改善してほしいと要望も出てきており、当局自身が根来小学校の実態がどうなっているのかを知っていたはずで、教育委員会は知っていながら、何ら対策すら考えていない。こういうことは、本当に子供たちのことを真剣に考えているのかが問われるのではないのでしょうか。この点では、今の根来小学校のこの現状、市としてどのような対応をとっていくのか、この点について質問をしたいと思います。

○井神議長　ただいまの2番目の質問に対する市当局の答弁を求めます。

教育部長。

○秦野教育部長　増田議員の根来小学校の環境整備について、総括してお答えいたします。

現在、根来小学校東口玄関前の庭園には、議員ご指摘のように、庭園内に石が配置されており、児童の立ち入りを禁止しております。教育委員会では、重点目標の1つに、安全・安心な教育の推進を掲げ、学校教育を進めているところであり、児童・生徒が安心して学校生活を送れる状況を維持することは重要なことであると認識しております。今回の件につきましては、根来小学校と至急協議を行い、対応してまいりたいと考えます。

また、教育予算が少ないとのご意見ですが、学校教育の充実及び学校施設の安全性を確保するため、必要な予算を確保しております。今回の根来小学校につきましても施設整備として、西側玄関前の周辺整備や校舎の雨漏り補修工事などを施工しているところでございます。

教育委員会としましては、今後も児童・生徒が安全に学校生活を過ごせるよう取り組んでまいりたいと思います。

なお、教育委員会は、子供たちのことを真剣に考えていないというようなご指摘であったかと思いますが、本日の一般質問の中でも多々触れさせていただいたように、私どもは子供たちのことを一生懸命考えて取り組んでおります。

以上です。

○井神議長　再質問を許します。

増田浩二議員。

○増田議員 今、早急にというんですか、対応していきたいというお答えでした。ちなみに、今も言ったんですが、これまで、今も言ったように、学校現場のほうから、実際には校長先生のほうからなんかは、教育委員会のほうに、そういう問題としては、現実には出されてきていないんです。

なぜかという、こういう岩石園そのもの自身も改造、学校からの要望という形で、予算内で実施しようとするれば、非常に多額な金額となるんじゃないかということが、やっぱり言われるんです。実際に早急に対応されると言っておられるんですが、現実には、この改造というんですか、安全な形にしていく。そういう部分では、教育委員会として、どれぐらいの金額が必要だというふうに想定しているのか、まず、その金額をどのぐらいかかるものなのかという点、この点をお聞きしたいと思います。

それと、早急ということなんで、少なくとも、どんなに遅くても今年度中にはできると思うんだけど、その点では、早急にと言われたんだけども、いつごろをめぐりに、それが改善されるのかという时期的な面、おわかりならば、ちょっと教えていただきたいなというふうに思うんです。

○井神議長 ただいまの再質問に対する市当局の答弁を求めます。

○井神議長 教育部長。

○秦野教育部長 増田議員の再質問にお答えいたします。

そもそもこの岩石園と呼ばれる場所なんですけど、最初から認識にずれがございまして、これ、もともと庭園としてつくられているものでございます。でこぼこがあった石とかいう話でございしますが、庭石として配置されてございまして、昭和38年に大きな母子像が再建されて、それを中心とした庭園として置かれているものでございます。

したがって、草が生えていたとか、そういうみっともない部分については早急に改善する必要がありますし、私が先日見に行った時点では、もう既に草はきれいにされておりまして。危険だから立ち入るのではなくて、ここは庭園であるので立ち入るべき場所ではないよ、そういう方向で、子供たちに改めて庭園の存在ということで認識させていきたいと考えております。

○井神議長 再々質問を許します。

増田浩二議員。

○増田議員 そういう点で、そういう形で改善という、今、庭園というような形で言

われたんで、そういう点で言うと、対応していきたいということを言われたんやけども、どんな形で、じゃあ対応していくのかなと。危険だから立ち入るなという形でしているのは間違いだと。実際には、庭園という形になるんだから、例えば、入らないように、そこのところ全体をしていくというような形にするのか、今言われている設備そのもの自身、それをやりかえていく、そういう形になるのか、その辺の工法というんですか、その辺はどういうふうな形で対応していくのかということをお聞きをしたいと思います。

それと、最初にも言ったんですけどね。学校としては、そういういろんな対応をしていくという部分の中では、ほかの根来小学校なんかでもそうなんです。ほかの他の学校なんかでも、教育委員会に対して、いろんなことをやってほしいんやと。やってほしいんやけども、予算が少ないんで、そういう部分についてはしてもらえやんというようなこともあるんです、実際に。

今回のように、現実的には、学校側として、そういう予算の範疇の中で、市に対して要望していくというふうになったとしたら、どうしてもほかの部分を優先せざるを得ないという現実があるんだということを、私はぜひ認識していただきたいと思うんです。

そういう点では、一般備品という部分と、今回のようないろんな改造というんですか、設備面で改造なんかを要する部分なんかという部分については、同じ学校に対しての配分予算という部分の中でも、分けて考えていくという、そういう対応なんかも必要ではないのかなというふうに思うんですが、そういう点では、そういう学校に対しての予算配分の中で、備品関係等そういう改造なんかも含めた整備面というんですか、そういう面では、どのように、市として今後対応して考えていくのかという、この点をお聞きしたいと思います。

以上です。

○井神議長　ただいまの再々質問に対する市当局の答弁を求めます。

教育部長。

○秦野教育部長　増田議員の再々質問にお答えいたします。

今後、この庭園についてどうしていくのかということでございますが、庭園としてみっともなくなないように、学校長と協議しながら対応を考えていきたいと考えております。

次に、予算についてのご指摘であります。限られた財政状況であるということは、前提として申し上げておきたいと思います。その上で、子供たちの命にかかわ

る、安全にかかわる部分、緊急にやらなければならない部分については、もちろん早急に対応してまいります。緊急性であるとか、必要性であるとか、そういったことを考慮しながら、優先順位をつけて取り組んでいるところでございますので、ご理解のほど、よろしくお願いします。

○井神議長　これで、増田浩二議員の２番目の質問を終わります。

　以上で、増田浩二議員の一般質問を終わります。